

シンポジウム開催報告

攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業 「九州における飼料生産組織、TMRセンター、子牛育成センターが連携する 地域分業化大規模肉用牛繁殖経営の実証」 成果シンポジウム

革新的技術緊急展開事業に関する成果シンポジウムを2016年2月18日（木）に鹿児島県歴史資料センター黎明館講堂で開催しました。民間企業、JA、生産者、国、県や市町村等から117名の参加がありました。

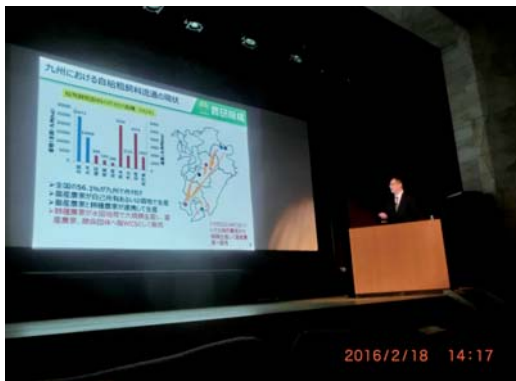
本事業は、輸入飼料の高騰や多頭飼育により、肉用牛繁殖経営で、自給飼料の安定的確保、作業労働競合の軽減が急務となっていることから、子牛生産のための一連の作業を分業化・専門化することで、各組織をより大規模に経営展開し、連携してコスト低減を可能とする地域営農体制の確立を目指しています。そこで、分業化体制に地域で取り組みを進めている鹿児島県大隅地域において、飼料生産組織（コントラクター）、飼料調製を担う TMR センター、繁殖農家、出荷までの育成牛の飼育を担当する哺育・育成センターに農研機構九州沖縄農業研究センター等が開発した技術を導入し実証研究を行うことにより、これらの導入技術の有効性を明らかにしようとしたものです。当センターが代表機関となり、鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場、福岡県農林業総合試験場、宮崎県畜産試験場、長崎県農林技術開発センター、熊本県農業研究センター畜産研究所、大分県農林水産研究指導センター、広島県立総合技術研究所畜産技術センター、株式会社 NTT ドコモ、株式会社藤原製作所、（独）家畜改良セン

ター鳥取牧場、鹿児島県大隅地域振興局、JA 鹿児島きもつき、鹿児島県経済連、株式会社肝付アグリ（農業生産法人）でコンソーシアムを形成して実証研究に取り組んできました。

シンポジウムでは2014,2015年度に現地に導入した以下の技術について、実証試験結果を踏まえた紹介をしました。(1) 省力・多収輪作体系、(2) 線虫対抗エンバク品種の利用による線虫増殖抑制効果、(3) WCS用イネ栽培に適した堆肥施用技術、(4) ロールベール簡易水分計、(5) 未利用資源を活用した繁殖牛向け発酵 TMR 調製・利用技術、(6) 代謝プロファイルテストを活用した繁殖管理技術、(7) 無線式体温測定システムによる発情発見、分娩管理の効率化、(8) 強化哺育マニュアル、(9) 牛舎内環境改善技術としての細霧装置。

シンポジウムの参加者に記入いただいたアンケートでは、“粗飼料生産コストを安定して低価格に保つために必要な技術だと思う”、“かんしょ生産者へも周知を図るとさらに活用が進みそうだと感じた”、“思っていたより精度が高そうで参考になった”、“小中規模の農家を戸数多く試験して、農家の声を集めて欲しい”、“すぐに普及に移せる成果である”など、概ね高い評価を得ました。

【畜産草地研究領域 服部 育男】



実証試験をふまえた技術の紹介



シンポジウム参加者との意見交換

九州沖縄農業研究センター
ニュース No.55
平成28年3月25日発行

編集・発行

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター広報普及室
〒861-1192 熊本県合志市須屋2421
TEL.096-242-7780.7530 FAX.096-249-7543
公式ウェブサイト <http://www.naro.affrc.go.jp/karc/index.html>